

## 「おばあちゃんが聞いたセミの合唱」

犬山市立羽黒小学校 四年

梶野 いち華

「朝からにぎやかだなあ」それは色あざやかな太陽がかがやく夏の朝、うるさいセミが鳴いています。そんなうるさいセミの声をじっと聞いている人が一人います。それは私のおばあちゃんです。私のおばあちゃんは、小さいころから病気で耳がきこえません。数分後、おばあちゃんに「これはセミの音？ポットの音？」と聞かれました。またまた数分後、「このセミの音はジジジジジッ？ニツニツニツシシ？」と聞かれました。耳をすませて聞いてみると、ミシミシミシーと聞こえてきました。まさに、セミの合唱のようでした。

なんで耳の聞こえないおばあちゃんにセミの声が聞こえたかと言うと、半年前に人工内耳という頭の中に音を聞きかきいを入れる手術を受けたからです。おばあちゃんは中学生のころからほちようきをつけて生活していますが、ほちようきをつけていてもあまり聞こえません。でも見た目では耳が聞こえないと分からないため、おかいものに行っても、何回もお店の人に言ってもらったり、書いてもらったり、それができない時はあきらめて多めにお金をはらうので、おばあちゃんのさいふはおつりだけ分らないと聞き直してくれないので、いつもぼつんとしています。私にはたくさんお友だちがいるけど、おばあちゃんのお友だちは一度も見たことがありません。そこで、おばあちゃんに小学校で習った手話をおしえようと思いました。おばあちゃんのだいじは手話ではなく、ふつうの小学校で生活するようにと口を読みながら生活するようにおそわったため、手話もできないときやくにおちこませてしまいました。そんなおばあちゃんの様子をみて、お母さんは何回も人工内耳の手術を勧めたそうです。がこわいからと受けずいました。ただ、コロナになり、みんなマスクの生活になってしまったため、口を読むことができなくなってしまうので、ようやく手術を決心しました。お母さんは手術の前、きつとなおる！と言っていましたが、私は正直病気はそんなかんたんになおらないと思っていました。なぜかと言うと、私はよく頭がいたくなるけど、薬を飲んでもかんたんにはなおらないからです。

手術から半年たって、私の予想通り、おばあちゃんの耳に私の声は聞こえませんでした。でも、予想に反してセミの声は聞こえるようになりました。は

じめてセミの声を聞いたおばあちゃんは、「セミっていいなあ。いい声だなあ。」と言っていました。私は、今までセミの声はうるさくてちよつときらいだったけど、おばあちゃんといっしょにセミの声を聞いてみると、なんだかキレイな音でかわいい声に聞こえてきました。今までは一人で聞いていたセミの声ですが、大好きなおばあちゃんと二人で聞くセミの合唱はさいこうだなあと思いました。